

# JACET Kansai Newsletter

No. 80 May 20, 2018

一般社団法人大学英語教育学会関西支部 (JACET Kansai Chapter)

支部長: 小栗 裕子 (関西外国語大学) (Chapter President: Yuko Oguri, Kansai Gaidai University)

事務局: 〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町 1-155 関西学院大学法学部 石川圭一 研究室内

(Chapter Office: c/o Keiichi Ishikawa, School of Law and Politics, Kwansei Gakuin University)

URL: <http://www.jacet-kansai.org/> (関西支部へは左の URL からご連絡ください)

## 「研究会」設立へのお説明

小栗 裕子 (支部長)

新しい学期が始まりました。支部長の小栗です。今年度もどうぞよろしくお願い申し上げます。

昨年度も計画した活動は滞りなく行われました。詳細は HP をご覧ください。多忙な校務にもかかわらず支部運営を支えてくださった総務幹事の高橋幸先生、財務の宇佐美彰規先生、広報の篠田和美先生、紀要の服部圭子先生には心より感謝申し上げます。また、2回の支部大会の企画から運営までご尽力いただいた研究企画委員の魚住香子先生、森下美和先生、柏原郁子先生、藤岡千伊奈先生、林正人先生、香林綾子先生にも深くお礼申し上げます。さらに時岡ゆかり先生には委員長として開催に向けて多大な力を注いでいただきました。ここに特に感謝の意を表したいと思います。

さてこの3月末にはみなさまのお手元に例年とは違った藍色の *JACET KANSAI JOURNAL (JKJ)* が届いたことでしょう。JKJ は 2017 年度に 20 号を迎える、その記念としての発行です。編集委員長の新田香織先生を中心に石川慎一郎先生、吉村俊子先生、そして幸重美津子先生 (3 年間お世話になりました) から成る編集委員の先生方によって出来上がったものです。関西支部では 10 の研究会がそれぞれ活発に研究活動を行なっています。今回の紀要の前半には、それらの研究会から推薦された方々による各研究会のこれまでの歩みから最新情報までが、12 ページに凝縮されて述べられています。

2017 年 10 月現在 JACET 全体では北海道支部 4、東北支部 1、関東支部 21、中部支部 7、中国・四国支部 2、九州・沖縄支部 3 と関西支部 10 を合わせて 48 の研究会が設立されています。どのような研究会があるのか各支部によって特徴があるようです。例えば、中部には「国際英語と異文化理解」や「多文化共生と英語教育」が、また九州・沖縄には「東アジア英語教育」といった独自の研究会が存在しています。一方、ESP 研究会は東北、中国・四国を除いて、すべての支部にありますし、授業学も関東、中部、関西支部で活動しています。関東は会員数も 1000 名と多く、その

分研究会の内容も多岐に渡っています。EAP、ELF (English as a Lingua Franca)、CEFR といった研究会の設立が近年見られます。

それでは関西はどうでしょうか。ESP と授業学以外の 8 研究会はすべて関西だけのもので (ライティングという名称は中部にありますが)、日頃教える上で基本となる分野が目立ちます。JKJ 20 号の大谷泰照氏「'Happy Slave Syndrome' からの覚醒—「海外の外国語教育」研究会—」によると、1986 年には 13 の多様な研究グループが発足していますが、その中には既に「国際英語」や「中・高・大の連携」が入っている点に大変興味を覚えました。

研究会は 5 名以上の会員が集まれば設立できます。設立趣意書を本部に提出し、理事会の承認を得れば、一定額の研究会補助費もありますし、研究会としての発表の機会も多く設けられていますのでお勧めです (ただし、予算の関係で来年度からの補助になります)。

ところで、30 年以上も前に中・高・大の連携についての研究会が作られ、現在も存続していないことが惜しまれます。しかしながら、今こそその必要性が求められているのではないでしょうか。その理由の一つは、高等学校学習指導要領 (2008) の「英語の授業は英語で行うことを基本とする」が 2013 年に施行されて、その下で教育を受けた学習者が今大学で学んでいるからです。教室内で英語を多く用いることで当然インプットの量が増えるという利点はありますが、その反面習熟度の低い学習者にとってはそれが負担になっていることが考えられます。

7 月 7 日 (土) の第一回支部講演会は広島市立大学の岩井千秋先生にこの「英語の授業は英語で」の影響についてお話をいただきます。大学生 6000 名のアンケート調査と大学教員等に面接調査を行った結果分析です。詳しくは同封のフライヤーをご覧ください。それではみなさまには神戸での講演会でお目にかかりますことを楽しみにしております。

## ■ 今年度のイベント・カレンダー ■

今年度に予定されている JACET 関西支部の活動です。是非ご予定ください。

日時 (Date)	行事・概要 (Event)
2018/7/7	第 1 回支部講演会・支部役員会@神戸国際会館 Kansai Chapter 1st Lecture Meeting / Chapter Board Meeting, Kobe International House
2018/9/30	『JACET Kansai Journal (JACET 関西支部紀要)』21 号投稿原稿締切 The deadline to submit a paper for <i>JACET Kansai Journal</i> No. 21
2018/10/13	第 2 回支部講演会・支部役員会@同志社大学 今出川キャンパス Kansai Chapter 2nd Lecture Meeting / Chapter Board Meeting, Doshisha University, Imadegawa Campus
2018/11/17	支部大会・支部総会@関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス Kansai Chapter Conference / Chapter Annual Meeting, Kwansei Gakuin University, Uegahara Campus
2019/3/9	第 3 回支部講演会・支部役員会@関西学院大学 梅田キャンパス Kansai Chapter 3rd Lecture Meeting / Chapter Board Meeting, Kwansei Gakuin University, Umeda Campus
2019/3/31	『JACET Kansai Journal (JACET 関西支部紀要)』21 号刊行 Publication of <i>JACET Kansai Journal</i> No. 21

なお、上記イベントは、諸事情により、断りなく日程・場所・内容等に変更が生じる場合がございます。最新情報は支部ホームページ (<http://www.jacet-kansai.org/>) にて随時更新しておりますので、ご確認ください。

Please check the Kansai Chapter website for specific details: <http://www.jacet-kansai.org/>.

## ■ 2018 年度 JACET 関西支部大会 ■

2018 年度の支部大会は、以下の要領で開催されます。発表（研究発表、実践報告、ポスター発表、ワーキングショップ、コロキアム）の募集期間は、7月 1 日（日）

～9 月 8 日（土）です。ふるってご応募ください。

日時：2018 年 11 月 17 日（土）

場所：関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパス

大会テーマ：英語教育の今とこれから

基調講演：“Fairness and Justice in Language Testing” Tim McNamara 先生（メルボルン大学教授）

\*2020 年度からの英語入試改革を踏まえたご講演です。

特別講演：「機械翻訳と英語教育」Tom Gally 先生（東京大学教授）

“Writing-to-Learn: Issues in Past and Current Theory and Research” 新谷 奈津子 先生（神戸学院大学准教授）

\*それぞれのご専門の分野の今とこれからについてお話しします。

## Kansai Chapter 2018 Conference

Kansai Chapter 2018 Conference will be held as follows. Call for papers (research papers, practical reports, poster sessions, workshops and colloquia) will be from July 1 until September 8. We look forward to your submissions.

Date: November 17, 2018

Venue: Kwansei Gakuin University, Nishinomiya-Uegahara Campus

Conference Theme: English Education, Present and Future

Keynote Lecture: “Fairness and Justice in Language Testing” by Prof. Tim McNamara (University of Melbourne)

\*Information relating to the 2020 changes in university entrance examinations in Japan will be referred to.

Special Lectures : “Machine Translation and English Education” by Prof. Tom Gally (Tokyo University), to be presented in Japanese.

“Writing-to-Learn: Issues in Past and Current Theory and Research” by Dr. Natsuko Shintani (Kobe Gakuin University)

\*Responding to the conference theme, the lecturers will explore the most recent research in their respective areas.

## ■ 2017 度第 3 回支部講演会の報告 ■

2017 年度第 3 回支部講演会が、2018 年 3 月 10 日（土）に大阪電気通信大学駅前キャンパスにて開催されました。講演には 42 名の参加がありました。講師の野口先生は、ご自身の学びのご経験と、教育に関するご研究を統合され、臨場感あふれる learning story をご披露下さいました。学習は、「コミュニティに参加しながら個人の創造性を伸ばしていくことにある」

というメッセージをしっかりと受け取ることができました。質疑応答も活発に行われ、非常に充実した時間となりました。講演会後の茶話会にも多くの先生方にご参加いただき、和やかに親交を深めることができました。

日時：2018年3月10日（土）15:30～17:00

場所：大阪電気通信大学 駅前キャンパス

演題：Why I teach the way I teach: Snapshots from a learning journey

講師：野口 ジュディー 津多江 先生（神戸学院大学名誉教授）

The Kansai Chapter Third Lecture Meeting of the 2017 academic year was held on Saturday, March 10th at Osaka Electro-Communication University, Campus in front of the station, with 42 participants. The speaker talked about how learning can occur and what teachers can do, along with her personal learning stories and her own educational research.

Date: Saturday, March 10, 2018

Venue: Osaka Electro-Communication University, Campus in front of the station

Title: Why I teach the way I teach: Snapshots from a learning journey

Speaker: Noguchi, Judy Tsutae (Professor Emerita, Kobe Gakuin University)

## ■ 2018年度第1回支部講演会のお知らせ ■

2018年度第1回支部講演会は、下記の通り岩井千秋先生による招待講演を予定しております。皆さまのご参加をお待ちしております。詳細は、支部ホームページ (<http://www.jacet-kansai.org/meeting.html>) をご覧ください。

1. 日時：2018年7月7日（土）15:30～17:00  
2. 場所：神戸国際会館 701号会議室 (<http://www.kih.co.jp/seminarhouse/meetinglist>)

3. 演題：高等学校指導要領に謳われた『英語の授業は英語で』の結果、影響、そして課題

4. 講師：岩井 千秋 先生（広島市立大学）  
5. 概要：英語の授業を英語で行う（TEE）ことの是非はこれまで多くの研究者や英語教師によって繰り返し議論されてきました。近年では教える内容や学習者のニーズに応じて学習者のL1を効果的に使用すべきという考えが主流になりつつあります。しかし、そんな中、2013年に施行された高等学校学習指導要領には「授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とする」基準が盛り込まれ、世間の耳目を集めました。講演者は、指導

要領のこの基準がやがて大学に入学てくる学生に何らかの影響を及ぼすと予想し、5年前の2014年に6名の研究仲間とともに、経年的にその影響を調査するプロジェクトを立ち上げました。そして、2014-2017の間にアンケート調査（大学生回答者数、延べ約6千名）や面接調査（大学英語教師24名、学生30名）を行いました。収集データを分析した結果でもっとも重要な点は、指導要領に盛り込まれた基準は学習者にほとんど影響しなかったことです。講演ではこの研究調査の結果を紹介するとともに、参加者の皆様と一緒に、何がこの教育政策の問題であったのか、さらに日本のような状況でTEEを実践するのに何が必要かについて考えてみたいと思います。

6. 参加費：JACET会員は無料、非会員は500円。事前申込不要

7. 使用言語：発表は日本語、質疑は日本語・英語

8. 茶話会：講演会後に茶話会（ノンアルコール、参加費500円、1時間程度）を予定

## Kansai Chapter First Lecture Meeting of AY 2018

The Kansai Chapter First Lecture Meeting of the 2018 academic year will be held as follows:

1. Date: Saturday, July 7, 2018, 15:30-17:00

2. Venue: Room 701, Kobe International House (<http://www.kih.co.jp/seminarhouse/meetinglist>)

3. Title: Consequence, Influence, and Problems of "Teaching English in English (TEE)" Required Through the High School Course of Study

4. Speaker: Prof. Chiaki Iwai (Hiroshima City University)

5. Abstract: Whether or not we should teach English in English (TEE): this is a long-lasting controversy among second language researchers and practitioners. The pendulum of the recent TEE argument has swung more toward an integration of L1 and L2, and some researchers (e.g., Swain & Lapkin, 2000) encourages judicious L1 use. Despite such circumstances, the well-known TEE policy, i.e., "[English subject] classes, in principle, should be conducted in English", was officially introduced in this country by the Ministry of Education into high schools through the Course of Study enacted in 2013. Assuming that the influence of this policy would not be limited to senior high school English education, the speaker launched an empirical project five years ago along with six other researchers to longitudinally examine the TEE policy's influence on English education and university English learners. The project collected both quantitative data (questionnaire responses from about 6,000 students) and

qualitative data (interviews with 24 teachers and 30 students) from 2014 to 2017. The most important finding was that the TEE policy had little impact on actual teaching and on the learners themselves. By presenting outcomes from this project, the speaker would like to discuss with the audience, the problems of the TEE policy and necessary conditions to promote TEE in the Japanese EFL context.

6. Fee: JACET member, free; nonmember, ¥500. No need to pre-register.

7. Main language: Japanese for presentation. English & Japanese in the Q&A session.

8. Party: Please join us for a one-hour gathering with soft drinks and light snacks after the lecture. The fee is ¥500.

Details are available at the Kansai Chapter website (<http://www.jacet-kansai.org>).

## ■ JACET 第 57 回国際大会のお知らせ ■

2018 年 8 月 28 日 (火) から 30 日 (木) まで東北学院大学 土壇キャンパスにて JACET 第 57 回国際大会が開催されます。皆様のご参加をお待ちしております。

テーマ：グローバル化に向けた初等英語教育から高等英語教育までの学習成果の質保証

日程：8 月 28 日 (火) ~ 8 月 30 日 (木)

場所：東北学院大学 土壇キャンパス

要旨：日本の高等教育の教育情勢は拡大するグローバル化の必要に応じて変化している。英語教育に関しては、留学などの国境を越えた教育プログラムの急増、学術や特定の目的のための英語に対する需要がある。初等外国語教育における新たな取り組みに見られるように、グローバル化が加速することで、日本の英語教育の現場では様々な影響が出ている。このような変化は英語学習や指導の状況に多大な影響を与えてきた。たとえば、コミュニケーション能力に特化した明確な学習成果が強く主張され、中等教育における「英語は英語で教える」という政策や高等教育における EMI (英語を媒介とした授業) を促進するようなカリキュラム改革が求められている。しかし、これらの変化により、初等レベルから高等レベルまで一貫性のある英語カリキュラムの必要性、言語プログラムの評価、教授法の選択肢、さらには、教員研修や専門能力の開発にいたるまで数多くの課題が浮上している。

東北で開催される大学英語教育学会 (JACET) 第 57 回国際大会 (仙台、2018) のテーマは、あらゆるレベルにおいて英語教育の学習成果の質をどのように

に「保証」するかの検証である。このテーマの下、現場の教師、カリキュラムや教材の開発設計者、プログラムの運営管理者、政策立案者、研究者および学者が、教育プログラムにおいて質の高い学習成果を確実に上げるために、どのようなことを行い、どう関わっていくべきかを探る。したがって、大会参加者にとっては、質の高い学習成果をどのように定義するか、学習到達度をどのように測定するかのいずれもが重要となる。ここでは単一の包括的解決を摸索するのではなく、むしろ、グローバル化した知識基盤社会の言語教育において、質の高い学習成果を促す際の争点を見極め明確化したい。多様性を認め、尊重しつつ、興味・関心を抱く世界中の教育者に議論に参加していただきたい。

## The JACET 57th International Convention

Theme: Assuring Quality Learning Outcomes in Primary to Tertiary English Education for Globalization

Date: Tuesday, August 28—Thursday, August 30, 2018

Venue: Tohoku Gakuin University, Tsuchitoi Campus

Abstract: The educational landscape of Japanese higher education is changing to meet the demands of increasing globalization. In terms of English language education, there has been a surge of cross-border education programs (e.g. study aboard) and a demand for English for academic and specific purposes. The acceleration of globalization also has ramifications at other levels of the English educational scene in Japan as exemplified by new initiatives in foreign language education at the primary level. Such changes have had a great impact on the conditions of English learning and teaching. For example, clear learning outcomes specifying communicative competence are strongly advocated, leading to curriculum reforms that promote a 'teaching English in English' policy in the secondary school context and EMI (English medium instruction) at the tertiary level. However, these changes have also raised numerous issues, ranging from the need for coherent English curricula from the primary to the tertiary levels, assessment of language programs, pedagogy options to teacher training, and professional development.

The theme of the 57<sup>th</sup> JACET International Convention (Sendai, 2018) in Tohoku will examine how quality learning outcomes in English education can be 'assured' at all levels. We will explore how classroom practitioners, curriculum and materials designers, program administrators, policy makers, researchers, and academics can pursue or engage in activities to ensure

that quality learning outcomes are achieved in educational programs. In this regard, it will be important for participants to discuss both ways to define quality learning outcomes and ways to measure learning achievement. We will not be looking for a single comprehensive solution but rather wish to identify and delineate the challenges at stake in promoting the achievement of quality learning outcomes in language education in our knowledge-based, globalized society. Valuing and respecting diversity, we invite all interested educators from around the world to come and join the discussion.

### ■ 紀要編集委員会より ■

『JACET 関西紀要』記念号第 20 号を平成 30 年 3 月末に会員の皆様にお届け致しました。今回は大きな問題は勃発せず、ほっとしております。記念号ということで JACET 関西研究会ご推薦の論文 10 本と、研究論文 2 本、研究ノート 2 本、そして実践報告 1 本を掲載しております。ご協力いただきました査読委員の先生方には、紀要編集委員会一同改めまして心よりお礼申し上げます。今後ともよろしくお願ひいたします。

平成 30 年 7 月 1 日より、第 21 号の投稿受付を開始いたします。締切は例年通り 9 月 30 日となっております。21 号からは JACET 国際大会・支部大会での発表、そして支部研究会活動に基づいた「実践報告（6 ページ）」を校閲のみで掲載することといたしました。査読対象となる「研究論文」は 20 ページ以内、「研究ノート」は 10 ページ以内となっております。投稿要領は第 20 号の巻末に掲載されております。詳細は 5 月末までに JACET 関西ウェブサイト及びメールでお知らせいたします。日頃の研究・実践の成果を是非共有させていただきたく、JACET 関西支部会員の皆様からの研究論文・研究ノート・実践報告のご応募をお待ちしております。

*The JACET Kansai Journal (JKJ) Editorial Committee announced the publication of JKJ No.20, which was sent to members at the end of March, 2018. The journal contains ten invited SIG articles, two research papers, two research notes, and one application report. The Editorial Committee would like to express its sincere gratitude to the reviewers who devoted much time and effort to the editorial process.*

We welcome your submissions for the next issue, JKJ No. 21, which requires online registrations starting on July 1st. Please check the guidelines for details on the submission procedures and requirements. Guidelines are available at the end of JKJ No. 20, and you will find the details at the JACET KANSAI website after May 31<sup>st</sup>.

### ■ 事務局より ■ Messages from Kansai Chapter

4 月 1 日より、支部事務局が関西学院大学 石川圭一研究室に移りました。1 年間どうぞよろしくお願ひ申し上げます。連絡先は本ニュースレターの冒頭をご覧ください。

本年度の体制は、小栗支部長、新田副支部長、藤澤副支部長を中心として、総務幹事を石川・香林綾子先生、財務幹事を中西のりこ先生・照井雅子先生、紀要幹事を住吉誠先生・坂本輝世先生、広報幹事を三木浩平先生・西美都子先生が務めます。この新体制で協力し合いながら、支部の活動を会員の皆様にとって有意義で、魅力的なものにしていきたいと考えております。

このたび、関西支部より野口ジュディー津多江先生（神戸学院大学名誉教授）が新たに JACET 顧問になりました。ここに、先生の永年のご功績やご尽力に敬意を表し、心よりお祝い申し上げます。

本年度の研究委企画委員会の体制として、委員長を羽藤由美先生、副委員長を細越響子先生、松田紀子先生、仁科恭徳先生、表谷純子先生、吉村征洋先生がご担当されることになりました。また新たに 7 名の先生方が研究企画委員としてご就任されました。心強い布陣で支部大会を盛り上げてまいります。皆様のあたたかいご理解とご支援をよろしくお願ひ申し上げます。2017 年度でご退任なさった先生方から、以下のメッセージをいただきましたので、ご紹介いたします。これまで支部のためにご尽力いただき、誠にありがとうございました。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。

### ■ 退任のご挨拶 ■ Messages from Kansai Chapter Officers Completing Their Term of Office

◎ 旧総務幹事：高橋 幸 先生（京都大学）

2012 年度に研究企画委員として 2 期 4 年担当させていただいた後、総務幹事として 2 年間、お世話になりました。関西（の大学）出身ではない私にとって、JACET 関西の活動を通してお知り合いになった先生が多くおられます。その先生方にご指導いただき、そして、支えていただき、どうにか事務局としての任期まで終えることができました。そのような素晴らしい出会いに恵まれたことが、この 6 年間の一番の思い出です。本当にありがとうございました。

◎ 旧財務幹事：宇佐美 彰規 先生（武庫川女子大学）

財務幹事としての 2 年間担当させて頂き、支部長、副支部長、支部幹事、紀要編集委員、研究企画委員を含め、多くの方々に大変お世話になりました。支部大会や講演会が開催されるまでにはたくさんの先生

方がそれぞれの役割で貢献され、表舞台が出来上がるごとを経験させて頂きました。限られた支部予算ではありますが、素晴らしい先生方と共に一つ一つのイベントに携わることができた2年間に心より御礼申し上げます。関西支部の益々のご発展をお祈りいたします。

◎ 旧紀要幹事：服部 圭子 先生（近畿大学）

紀要幹事として2年間携わらせていただきました。特に平成29年度はJACET関西紀要第20号（20周年記念号）編集の年で、特別企画や新たな編集作業の試みを事務局としてお手伝いする過程で、本当に貴重な経験をさせていただき多くのことを学ばせていただきました。学会誌完成までのプロセスにおいて、幹事や委員の先生方をはじめ、皆さまからの温かく力強いサポートをいただきましたことを心より感謝申し上げます。今後もJACET関西支部の発展を願い、一員として積極的に参加したいと思いますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

◎ 旧広報幹事：鳴田 和美 先生（関西外国語大学短期大学部）

広報幹事として二年間お世話になりました。当初は不慣れな作業に接し、何度も立ち止まり困惑する事が多く、反省することばかりの日々でした。それでも委員の皆様との出会い、折に触れての交流は私にとって何にも代えがたい貴重な財産となりました。今後は一員として大会、講演会、および研究会への参加を通して関西支部のさらなる発展に貢献させていただく所存です。引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

◎ 旧研究企画委員長：時岡 ゆかり 先生（大阪産業大学）

企画委員として3年間、最期の1年は委員長として先生方には大変お世話になりました。委員長をお引き受けしたものの、組織図の把握も不十分であったため、支部長、副支部長、幹事、企画委員の先生方からのアドバイスは大変ありがたく、また心強く感じました。また副委員長の魚住先生、松田先生をはじめ企画委員の先生方には精神的なサポートも含めて大いに助けていただきました。貴重な経験を積むことが出来ましたことを心より感謝申し上げます。

◎ 旧研究企画副委員長：魚住 香子 先生（神戸国際大学）

2016年度より2年間、研究企画委員としてお世話になりました。1年目は支部大会での賛助会員による展示の担当などをさせていただき、2年目は時岡ゆかり委員長のもと、松田紀子先生と共に副委員長を務めさせていただきました。至らぬ点も多くあったと思いますが、春季・秋季大会および講演会等が多くの先生

方のご尽力によって、時間と手間をかけて丁寧に企画・運営していく過程を学ぶことができました。ありがとうございました。

◎ 旧研究企画委員：森下 美和 先生（神戸学院大学）

2014年度から2017年度までの4年間、研究企画委員を担当させていただきました。研究企画委員会や支部大会が校務と重なって欠席せざるを得ないことも度々ありましたが、在任期間中、少しでも貢献できただことがあれば幸いです。関西大学の染谷泰正先生に、2014年度は字幕翻訳ワークショップ、2017年度は基調講演をお願いできたことは、特に印象に残っています。JACET関西支部のますますのご発展をお祈りしております。

◎ 旧研究企画委員：柏原 郁子 先生（大阪電気通信大学）

2016年度から2017年度の2年間、研究企画委員として大変お世話になりました。JACET関西支部を通じて、多くの先生方の知己を得て、貴重な経験をさせて頂き感謝しております。今後もJACET関西支部の益々の発展を心よりお祈り申し上げます。

◎ 旧研究企画委員：藤岡 千伊奈 先生（流通科学大学）

2期にわたり大変お世話になりました。また、私の在外研究期間には、寛容なご対応をいただき、ありがとうございました。初めて学会の役員になり、貴重な経験をさせていただきながら、多くのことを勉強させていただきました。それまで一員として支部会へ行っていたときは、先生方が大会の準備・運営に大変なご苦労をされていることを知りませんでした。近年、大学の業務が年々増す中、支部長をはじめ先生方には関西支部の運営に多大なるご尽力を賜り、頭が下がる思いです。心から感謝申し上げます。今後ともよろしくお願ひいたします。

◎ 旧研究企画委員：林 正人 先生（立命館大学）

1期2年間、研究企画委員としてお世話になりました。お話を頂戴した時は驚きましたが、支部大会などを本務校の新キャンパスで開催できればという思いもあり、お受けさせていただきました。（これは私どもの都合で叶わず、今も残念に思っております。）たいした仕事もしない2年間でした。大変心苦しく感じております。最後になりましたが、ご指導を頂いた先生方に心から感謝を申し上げますとともに、ますますのご活躍を祈念いたしております。

◎ 旧研究企画委員：香林 綾子 先生（甲南大学）

研究企画委員として、2年間携わらせて頂きました。会場校を担当させて頂いた時は、研究企画委員長の時

岡先生をはじめ、多くの先生方に大変お世話になりました。深く感謝申し上げます。今年度からは、総務副幹事としてお世話になります。JACET 関西支部の発展に少しでも貢献できますよう努めて参りますので、引き続きどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

◎ 旧関西支部紀要編集委員：幸重 美津子 先生（京都外国語大学外国語専門大学）

新田先生からのご依頼もあり、今回は3年間紀要委員を担当させて頂きました。多くの先生方にお世話になりましたながら、微力ながら学会誌が作りあげられていくプロセスを共有できたことは、私にとって楽しい経験でした。より良い学会誌を目指して細かい作業を行なながら、少しでも作業効率を上げようと、皆で知恵を出し合ったことも良い思い出です。今年度は、国際大会等のお手伝いなどでお目にかかるかと存じます。引き続きどうぞ宜しくお願ひ申し上げます。

## ■ 訃報 ■

東 真須美 先生（神戸芸術工科大学名誉教授）が2017年8月4日にご逝去されました。先生には研究企画委員、同委員長そして最近では社員として関西支部のために大変ご尽力いただきました。ここに心よりご冥福をお祈り申し上げます。

## ■ 会員情報の変更 ■

支部会員向けの各種案内の配達やメーリング・リストによる情報の配信に使用いたしますので、会員情報（住所、メールアドレス、所属、電話番号等）が変わられた方は、必ずご連絡ください。なお、関西支部では名簿の作成・管理は行っておりません。会員情報の変更のご連絡は、本部事務局 ([jacet@zb3.so-net.ne.jp](mailto:jacet@zb3.so-net.ne.jp))までお願いいたします。

Please immediately report any changes in your address, affiliation, e-mail address, telephone numbers, and other information to the **JACET Main Office** ([jacet@zb3.so-net.ne.jp](mailto:jacet@zb3.so-net.ne.jp)).